

子宮頸がん(HPVワクチン)予防接種について

子宮頸がん(HPVワクチン)の対象者

小学6年生から高校1年相当の女子が対象ですが、令和8年度にご案内を郵送するのは令和8年度に中学1年生(平成25年4月2日～平成26年4月1日生まれ)になる女子です。

子宮頸がん・ヒトパピローマウイルス感染症について

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる皮膚の微少なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がんの発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のもは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因となることが分かっています。

予防接種時の必要事項

- ①協力医療機関へ予約してください
- ②接種当日に持参するもの
 - (1)健康保険証など「住所」「氏名」「生年月日」がわかるもの
 - (2)母子健康手帳
 - (3)予診票は、事前に記入し持参してください
(予診票は医療機関にも準備しています)

予防接種を受けられない方

- ①明らかに発熱している方(接種時体温37.5℃以上)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③ワクチンの成分(詳しくは医師にお尋ねください)によって過敏症(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む)をおこしたことがある方
- ④生ワクチンを接種して28日以内の方、または不活化ワクチンを接種して6日以内の方
- ⑤その他、医師が予防接種を受けないほうがよいと判断した場合

予防接種前に医師によく相談しなければならない方

- ①血小板が少ない方や出血しやすい方
- ②心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方
- ④過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ⑤過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑥妊娠あるいは妊娠している可能性のある方(3回の接種期間中を含む)

裏面をご覧ください